

ぐんまの消防

第40号

令和3年度発行

地域住民の安心・
安全のために



表紙写真 富岡甘楽広域消防本部訓練風景

〈主な記事〉

- p 2 団長の熱き思い(太田市消防団 団長)
- p 4 群馬県緊急消防援助隊派遣
- p 5 群馬県消防学校「一日入校」について
- p 6 AED使用率向上のための取り組みについて(伊勢崎市消防本部)



団長の熱き思い

地域貢献



太田市消防団

団長 中島 正幸

太田市は群馬県の南東部に位置し、南に利根川、北に渡良瀬川が流れ、中心部には市のシンボルである金山と、八王子山丘陵が走る自然豊かな場所であると共に、輸出機器産業が盛んな地域で製造品出荷額は全国上位にはいっており、全国に誇れる街であります。

太田市消防団は一本部六方面隊、十六個分団、三十四個部で構成され、消防団員は「私達の街は私達で守る」という使命感のもと、太田市民の安全安心のため訓練を重ね、常日頃災害に備えております。しかし、近年では全国各地で毎年のように自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。気候変動の影響等により、激甚化・頻発化する水災害や大規模地震から市民の命と暮らしを守るためには、これまで以上の訓練や対策が必要になると考えています。

そんな中、局地的な大雨、台風等の風水害が太田市に発生した場合において、被害軽減を第一に、資機材の取扱いに関する知識を高め、技術を習得する事により「安全・確実・迅速」な消防活動の向上を目指し、令和三年六月に配備されたボートを活用し風水害対策等実動訓練を行いました。

令和元年東日本台風では、自然災害が比較的少ないと言われていた太田市においても、河川の溢水などにより水害が発生いたしました。太田市消防団では、当日の災害対応に加え、市民の期待にこたえるべく被害の大きかった地域において、復旧作業を行い地域に貢献させていたいただきました。市民が求めている活動をより市民に近い場所で行う事で、団員からも「市民が困難な時、守るべき街に貢献でき、より使命感が強くなった」との声が上がりました。また、被災された方々から多くのお礼の言葉をいただいた事で、より一層の励みとなりました。私たちは、これからも太田市消防団員として一致団結し、勇往邁進する所存です。

そして、目下のところ危機に瀕している消防団員数ですが、こういった災害活動のみならず、様々な分野での「地域貢献」に対する使命感や充実感を糧に、消防団活動に対する周囲の理解と自己のやりがい高めを伝承することにより団員の確保に繋げていきたいと思っております。

災害との厳しい戦いは今後も続いていきますので、更なる組織の充実強化を図り、伝統ある消防団としての自覚と誇りを持ち続け精進してまいります。

令和三年度表彰

長年にわたる消防業務のご功績により叙勲及び表彰された方々をご紹介します。

瑞宝小綬章

元桐生市消防正監 福田 力
元太田市消防正監 松本 繁
元伊勢崎市消防正監 田島 武雄

瑞宝双光章

元嬭恋消防団 団長 市村今朝雄

瑞宝単光章

元高崎市消防団 副団長 赤尾 嘉一
元桐生市消防団 団長 根岸 佐年
元渋川市消防団 団長 桑原 良雄
元片品村消防団 団長 星野 豊保
元前橋市消防団 分団長 伊藤 良一
元高崎市消防団 副団長 深澤 正秀
元桐生市消防団 分団長 岡地 三男
元藤岡市消防団 副団長 宮澤 満
元草津町消防団 団長 竹淵 敏

藍綬褒章

高崎市消防団 副団長 美才治和則
元前橋市消防団 副団長 井上 清
高崎市消防団 副団長 高橋 喜良

県功労者表彰

嬭恋消防団 団長 熊川 美朗

県総合表彰

前橋市消防団 副団長 石坂 初夫
神流町消防団 副団長 大塚 幸英
高崎市消防団 副団長 赤坂 太

桐生市消防団 副団長 坂田 功
藤岡市消防団 団長 四方田正美
太田市消防団 副団長 松島 孝徳
高崎市消防団 副団長 井上 利昌
東吾妻町消防団 団長 久保弥寿志
元吉岡町消防団 団長 吉澤 充雄
玉村町消防団 団長 神立 鉄也
嬭恋消防団 副団長 野口 幸保

県消防協会定例表彰

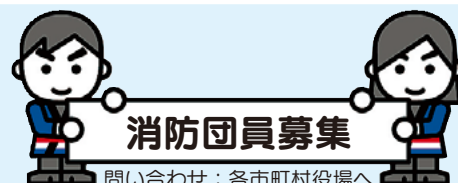
「表彰者総数 三二八五名 六団体」
☆功労章 一二二名(一八名)
☆永年勤続功労章 三五六名(三五名)
☆精績章 四一六名
☆精勤章 五三三名
五年勤続 五三三名
一〇年勤続 四三七名
一五年勤続 三八四名
二〇年勤続 三三二名(一六名)
二五年勤続 一五七名(三六名)
三〇年勤続 六四名(一六名)
三五年勤続 三二名(一五名)
四〇年勤続 二七名(一二名)
四五年勤続 七名

☆永年勤続退職者表彰

三二一名(五九名)
☆三世代伝承等優良消防団員顕彰 七名
☆無火災表彰 六団体
安中市消防団第九分団 四年
桐生市消防団桐生方面第二分団 十年
桐生市消防団桐生方面第八分団 三年
桐生市消防団桐生方面第十六分団 二年
みどり市消防団第八分団 四年
川場村消防団第一分団 十一年

()内は消防職員数で内数

消防団紹介



桐生市消防団・みどり市消防団

群馬県消防協会桐生広域支部は、桐生市消防団、みどり市消防団及び桐生市消防本部で構成されています。

桐生市は、市域の約七割を山林が占め、市街地を挟むように渡良瀬川と桐生川が流れています。桐生市消防団は、団本部及び二十六箇分団、団員五一四名であり、その内、機能別消防団員が三十七名在籍しています。

みどり市は、地形が南北に長く、北部には足尾山地が連なり、渡良瀬川が市の北東から南東にかけて流れています。みどり市消防団は、団本部及び十五箇分団、団員二六一名であり、その内、機能別消防団員が二十四名在籍しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に図り、四月に桐生みどり消防署において、新入団員研修を実施しました。参加者は、両市消防団の新入団員十七名で、消防職員指導のもと、訓練礼式を実施しました。



開始直後は、慣れない訓練であるためか、ぎこちない動作が多く見られましたが、訓練を重ねていく中で、消防団員としての規律正しい礼式を身に付け、今後の現場活動等に生かせる有意義な訓練となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や訓練が中止となっています。新入団員研修につきましても、従前、屋内で座学も実施していましたが、感染防止対策として、屋外で訓練礼式のみ実施となりました。

今後も新型コロナウイルスの感染状況を十分に見極め、感染防止対策を十分に図りながら、訓練を計画・実施していき、消防力の維持・向上に努めていきます。

伊勢崎市消防団

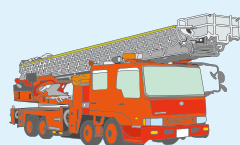
伊勢崎市は赤城山麓の南方に位置し、西部から南部には利根川が流れ、大きな山はなく平坦な地形となっています。この地域を管轄する伊勢崎市消防団は、現在、計七十三名(定員七三五名)が在籍し、住民の安心安全を確保するための活動しています。

さて、近年、全国的に団員数の減少に歯止めがかからない中、伊勢崎市消防団においても、少子高齢化や、雇用形態の変化など、団員の確保が難しくなっている状況です。このことから、令和二年度より、機能別消防団員制度を導入し、現在、十三名の学生・女性の機能別消防団員が、新入団員募集や火災予防などの広報活動を主として実施しています。令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止になったことから、イベント会場での広報活動の実施が困難となりました。このような中、三月の春季火災予防運動では、国道に面した消防本部の敷地内で、通勤時間帯の朝七時三十分から八時三十分まで街頭広報を実施しました。また、この年は活動の一つとして、地域の自主防災訓練に参加し、避難所でダンボール製のベッドや間仕切り壁を作成するなど、避難所の運営活動に参加者と共に学びました。今後も、防災の知識を身に付け、いざという時に備え、あらゆる訓練に参加していく予定です。

令和三年度も新型コロナウイルス感染症により、機能別消防団員の活動は制限されますが、地域の安心安全に貢献できるよう、感染対策を十分考慮し、できる活動を積極的に実施していきたいと考えております。



自主防災訓練・火災予防運動



『群馬県緊急消防援助隊派遣』

～静岡県熱海市土石流災害～

令和三年七月三日、静岡県熱海市伊豆山にて発生した土石流災害に、緊急消防援助隊群馬県大隊として七月十八日から七月二十四日までの七日間、延べ五十七隊二二五名の隊員が派遣され、搜索、救助活動に従事しました。

令和三年七月三日、静岡県熱海市伊豆山にて発生した土石流災害に、緊急消防援助隊群馬県大隊として七月十八日から七月二十四日までの七日間、延べ五十七隊二二五名の隊員が派遣され、搜索、救助活動に従事しました。

近年は、梅雨時期、台風シーズンの降水量が従前と比べ大幅に増加しており、土砂災害、河川氾濫の危険性が増しております。発生が危惧さ



活動状況

『消防力を維持するために』

～多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部～

多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部では、定年退職に伴う大量退職期の到来により人員確保のため、近年、新規採用職員を増加し備えてきました。

このため、若年層が増加し令和四年度の平均年齢は約三十三歳となる見込みで、若き力に溢れた活気のある消防本部となっていますが、その反面、中高年層の比率が減少していることから、知識や

経験等を継承・伝承し、「消防力の維持」が必要不可欠となります。

現在、当消防本部では消防力の維持を目的に訓練及び職場研修を定期的を実施しており、令和三年三月には、バスと普通車の衝突事故による多数傷病者対応訓練を実施しました。令和三年九月には、二日間において「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」

についての研修を開催しました。

当消防本部が考える訓練や研修の本質的な目的は、「消防士としての高い意識形成」にあります。職員一人ひとりの意識を高めることで、より良い住民サービスに努めてまいります。



多数傷病者対応訓練



SNS研修

『火災調査部会の活動』

～群馬県消防長会～

群馬県消防長会予防担当課長会議火災調査部会（以下「火災調査部会」という。）は、群馬県内十一消防本部の火災調査技術及び火災原因の究明に関する情報の共有、調査及び研究を行い、各消防本部の調査技術の向上を図るため平成二十七年に設置されました。

火災調査とは、消防法第三十一条に規定される消防の業務であり、火災の原因究明及び損害調査のため、火災に至った全ての要因を分析、解明するもので、その調査結果は広く国民に周知され、類似火災の根絶に役立てられています。

近年、火災件数の減少に伴い、火災調査実務に携わる機会が減る中、職員の育成は大きな課題であり、火災調査部会では関係機関と連携した調査実技研究会や講演会等の開催、また群馬県消防学校消

防職員専科教育火災調査科学生に対し、担当教官と連携を図り調査技術等を供与するなど、群馬県内各消防本部の火災調査技術等の維持、向上に重要な役割を担っております。



火災調査部会

『群馬県消防学校「二日入校」について』

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

〇はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年度と同様にイベントや研修会が中止となり、群馬県女性防火クラブ連絡協議会としての活動が行えていない状況です。

例年、イベントに関連した内容を御報告していますが、多くが中止となっているため、今回は藤岡市女性防火クラブの消防学校「一日入校」を取材しましたので、その内容を御報告いたします。

〇消防学校「一日入校」について

消防学校では、消防職団員の教育訓練だけでなく、県民の防災意識の醸成を図るため、「二日入校」として各種防災団体等の受入も行っています。

藤岡市女性防火クラブは令和三年十月二十八日に入校し、訓練礼式、消火訓練、地震体験を行いました。クラブ員は指導教官の話に熱心に耳を傾け、一生懸命研修を受講していました。藤岡市女性防火クラブ高橋陽子会長は「コロナ禍で活動が制限される中、交流も含めて活動できてよかった。また、消火器の使い方をはじめ貴重な体験ができて良い勉強になった」ととても満足した様子でインタビューに答えていらっしゃいました。

次に「二日入校」の内容を紹介いたします。研修メニューは、座学、消火器取扱訓練、屋内消火栓取扱訓練、避難訓練（煙体験）、避難訓練（救助袋）、天ぷら油火災実験、地震体験等があります。対象者は、地域の団体（防火管理者、

自衛消防隊、女性防火クラブ、自治会など）です。

※個人での申込みはできませんので、注意してください。

費用は無料で、申し込み方法は電話です。消防学校〇二七—三三—五六〇〇までお問い合わせください。詳しくは消防学校HPを御覧ください。

〇おわりに

群馬県消防学校「一日入校」は消火器の扱い方や避難訓練など、様々なメニューを体験することができます。消防学校でしか体験できないこともたくさんあり、貴重な体験ができますので、是非利用してみたいかがでしょうか。



一日お世話になった
藤岡市女性防火クラブの皆さん

『嫗恋村婦人消防隊について』

嫗恋村婦人消防隊 隊長 竹淵 寿美子

私たち嫗恋村婦人消防隊は昭和三十九年十二月に設立以来、令和三年年度で歴代隊長は四十九代を数え、五十七年目を迎える歴史ある消防隊です。

設立と活動の目的として、家庭を守る婦人の防火意識の向上を図ることから、家庭、地域の火災を防止することを目的に、婦人会・若妻会を母体に設立されました。

消防団行事に参加し、一人でも多くの方が消防の活動を体験され、その大変な活動の中から、「自分の家庭からは火災を出さない」という意識の輪が広がることに、婦人消防隊の意義と活動の目的があります。

また、自らの地区は、自ら守るという自主防災組織の役割が見直され、婦人消防隊にも、予防消防を基本とした知識の吸収と防災意識の向上が期待されています。

一、消防学校二日入校（六月） 群馬県消防学校

婦人会の視察研修にあわせた群馬県消防学校への体験入校。

学校職員による講話及び消火訓練、避難訓練、起震車による地震体験などを行っています。

二、嫗恋消防団・婦人消防隊秋季点検（十月三十日）
消防団や、婦人消防隊の訓練の集大成として、村内外の方にその成果を披露する行事となっています。



秋季点検（分列行進）



消防学校 1 日入校

婦人消防隊は、出場一九〇名とし、各地区割り当てられた人員で参加。消火器、消火栓操法や、国旗掲揚、分列行進等を実施しています。

三、嫗恋消防団・婦人消防隊出初め式（一月七日）

秋季点検と同じく一九〇名の出場。消防団と合同で実施することにより、団員や隊員のみならず村内外に、一年間の無火災を喚起する行事となっています。

四、交換火防（各家庭の防火指導）三月第一日曜

春の全国火災予防運動にあわせ、消防団と合同で区域内の各家庭を訪問、火災予防と、消火器設置の指導などを行います。特に最近では、独居老人宅の重点指導を行っています。

最後に、最近では、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から相次いで中止となってしまうおりましたが、関係機関との協力や消防隊員相互の連携を図ることにより、家庭と地域の防火・防災に関する意識向上のためこれからも積極的に活動していきます。

AED使用率向上のための取り組みについて

伊勢崎市消防本部

伊勢崎市消防本部が、バイスタンダーによるAED使用率の向上を目的に行っている取り組み「AEDシート」について紹介します。

AEDとはAutomated(自動化)External(体外式)Defibrillator(除細動器)の略で、日本語では「自動体外式除細動器」と言われています。人の心臓は血液を全身に送るポンプの役割をしています。その心臓がけいれんをしてポンプの機能を失った状態(心室細動)の時に、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すことができる医療機器がAEDです。平成十六年七月から医療従事者ではない一般市民でも使用することができるようになり、これを機にAEDは日本国内において、急速に普及しました。

救急車が到着する前に、胸骨圧迫(心臓マッサージ)とともにAEDを使用すれば、仮に心臓疾患で倒れた人の場合、何もしないよりも救命率が約六倍上がるとされています。しかしそんなAEDも「倒れた人が女性であった。」ことを理由に、その場所にあったにもかかわらず使用されず、重い意識障害が残る結果となった事案がテレビなどで取り上げら

れました。また京都大学などの研究グループが、全国の学校を対象にAEDの使用率について調査をしたところ、高校生では男性に比べて、女性へのAED使用率が低い傾向(男性八三・二%、女性五五・六%)があることがわかりました。どちらも女性の服を脱がせることへの抵抗感があることによる結果と思われる。AEDは電源を入れて2枚のパッドを貼りますが、下着をずらして貼ったり、その上から服などをかけて肌を隠すようにしたりしても、AEDの機能に影響はありません。このような配慮をしたAEDの使用方法は、一般の人にもまだ十分に浸透していないのかもしれない。

こういった現状に対して和歌山県にある熊野高校の生徒たちが、AEDを使用する際に、傷病者の姿が周囲から見えないように体を覆う「AEDシート」を作成したという情報を得られたことから、伊勢崎市消防本部も傷病者のプライバシーを保護するための施策を検討しました。今はジェンダーレスな時代ですから、女性だけでなくすべての傷病者に対してプライバシーの保護が必要です。性別に関係なくAEDが使用できるよう、さらにAEDの使用に対する心理的抵抗感を

軽減できるよう、プライバシーを保護しながら行う心肺蘇生とAEDの使用方法を記したリーフレットを作成しました。また傷病者の体を覆うシートには、他市が行っている施策を参考に、簡単に扱えるものとして三角巾の導入を考えました。これらを試行的に伊勢崎市消防本部で管理している二十五施設二十五台のAEDについて、一台につきリーフレットと三角巾二枚を配備し、一般の人がAEDを使用する際に必ず目にする事ができるように設置しました。まだ使用された実績はありませんが、いつか役に立つてくれることを願っています。

日本国内では年々、AEDの設置率が増加していますが、令和元年に日本AED財団が行った調査では、病院の外で倒れた際に、たまたま居合わせた人に目撃された心停止の中でも、約半数は心肺蘇生を受けてなく、更にAEDが使用されているのは全体の五・一%でした。伊勢崎市消防本部では、この五・一%という数字を少しでも上昇させるために、「AEDシート」を含めた様々な取り組みを検討し、AEDを使用することが当たり前となる世の中に近づこうと努めています。

三角巾を利用したプライバシー保護方法

- AEDを使用した心肺蘇生法を実施するには、次の手順の中でプライバシー保護に努めてください。
- コロナ禍では感染防止のため、傷病者の口にマスクやハンカチなどをかけて処置を行ってください。

①胸骨圧迫を優先して行う ※服の上から実施 	②AED内に三角巾が入っています 	③三角巾を使用して プライバシー保護をする 
④パッドを装着する (右鎖骨の下部分) 	⑤パッドを装着する (左側胸部付近) 	⑥AEDのメッセージに従い 電気ショックを行う 

【注意点】

注意① 服を脱がさずAEDパッドを装着 ※プライバシー保護よりAEDを優先 	注意② 三角巾をかけ、プライバシー保護をする ※透ける場合は三角巾を2枚使用 
--	---



群馬県殉職消防職団員慰霊祭を挙行

令和三年十一月五日(金)群馬県消防学校の慰霊碑前において、群馬県殉職消防職団員慰霊祭が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小し、御遺族代表の方々、御来賓、消防協会役員・消防関係者など五十三名の参加を頂き厳粛に執り行われました。

主催者として群馬県消防協会副会長である吉田高広危機管理監が出席し、「この慰霊碑には、消防職団員として職務を遂行する中で、県民の生命・財産を守るために、身を挺して危険に立ち向かわれ、尊くもその職に殉ぜられた方々が祭られております。我々は、殉職された方々の強い正義感と深い郷土愛に基づく崇高な消防精神を規範とし、これまで以上に、災害に強く、安全で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。」と会長である山本知事の式辞を代読し、その後、参列者の皆様による献花が行われ、殉職者の御霊に対して敬意を表するとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。



富岡甘楽広域消防本部訓練風景

表紙写真 富岡甘楽広域消防本部訓練風景

令和三年十月十八日・二十五日に富岡市の「もみじ平総合公園北ゾーン」において、群馬県防災航空隊と富岡甘楽広域消防本部の合同訓練を実施しました。

群馬県の防災ヘリコプター「はるな」が新機体での運航再開後、当消防本部とは初めての合同訓練となり、新機体の説明を受けた後、無線要領、機体誘導、救助・救急の連携訓練を行いました。

秋の行楽シーズンを迎えるにあたり、妙義山をはじめとした西上州の山々にもたくさんのお登山客等が訪れることが予想され、有事の際には迅速な連携がとれるよう活動内容の確認ができました。

※訓練はヘリコプターのダウンウオッシュ(強風下)のなかで実施しています。マスクを始めとする装備品等の飛散防止を徹底して行っています。



群馬県消防協会 支部一覧

支部名	所在地	電話番号
前 橋	〒371-0014 前橋市朝日町4-22-2 前橋市消防局総務課内	027-220-4504
高 崎 市 等 広 域	〒370-0861 高崎市八千代町1-13-10 高崎市等広域消防局総務課内	027-322-2393
桐 生 広 域	〒376-0027 桐生市元宿町13-38 桐生市消防本部総務課内	0277-47-1701
伊 勢 崎 佐 波	〒372-0031 伊勢崎市今泉町2-895 伊勢崎市消防本部総務課内	0270-25-3511
太 田	〒373-0063 太田市鳥山下町409-1 太田市消防本部消防総務課内	0276-33-0201
利 根 沼 田	〒378-0056 沼田市高橋場町2049-1 利根沼田広域消防本部警防課内	0278-22-3139
館 林	〒374-0015 館林市上赤生田町4050-1 館林地区消防組合消防本部警防課内	0276-72-8361
渋 川	〒377-0008 渋川市渋川1815-51 渋川広域消防本部総務課内	0279-25-4191
多 野 藤 岡	〒375-0024 藤岡市藤岡982 多野藤岡広域消防本部警防課内	0274-22-2306
富 岡 甘 楽	〒370-2316 富岡市富岡1922-7 富岡甘楽広域消防本部警防課内	0274-62-4333
吾 妻	〒377-0805 吾妻郡東吾妻町植栗1174-1 吾妻広域消防本部警防課内	0279-68-0217

県内の消防の現況 (令和3年10月1日現在)

消防団員数	11,170人	(前年比 145人減)
男性	10,998人	(前年比 143人減)
女性	172人	(前年比 2人減)
消防職員数	2,565人	(前年比 2人増)

消防団員募集

お問合せ先：各市町村役場へ



2021年度全国統一防火標語

「おうち時間 家族で点検 火の始末」

発 行 所 公益財団法人 群馬県消防協会
前橋市大手町一丁目1番1号
群馬県総務部消防保安課内
TEL 027-220-1338
URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>
編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
常任理事 板 垣 哲 夫
印 刷 所 朝日印刷工業株式会社

編 集 後 記

令和3年は東京オリンピック、パラリンピック大会が開催され、アスリートの素晴らしい活躍が印象に残りました。一方、変異株による新型コロナウイルス感染症が県内でも拡大し、「まん延防止措置」や「緊急事態宣言」が発令され、消防団活動はもとより、私達の日常生活も様々な制約を受けました。

また、7月には熱海市で大規模土石流災害が発生し、本県からも緊急消防援助隊が派遣されました。近年は気候変動によると思われる大規模災害の発生が多くなっていると感じますが、令和4年は大きな災害が無く、新型コロナウイルス感染症も収束した明るい年となることを願っています。